

広報



No.320

しゅら

平成9年

4月号



小学一年生の
トレードマーク?

今年も管内小学校には元気な27名の一年生が入学しました。学校へ通学する新入学児童に欠かせないものがランドセルと黄色い交通安全帽です。

この安全帽は平成3年に地元への奉仕活動を目的に結成された「市浦村ライオンズクラブ(高橋哲弘会長)」が平成4年から管内の新小学一年生に配布しているもので、今年も子どもたちは入学式で配られた真新しい帽子をうれしそうに手にしていました。

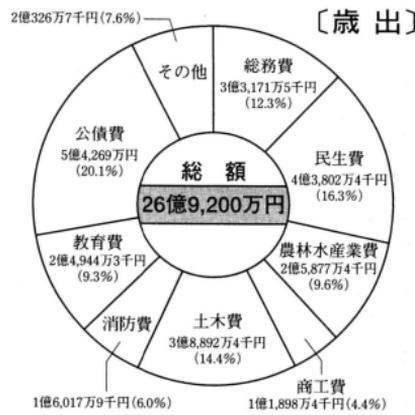
—— 地域再生から地域創造へ ——

一般会計予算は 26億9,200万円でスタート



市浦村議会三月定例会が三月六日から十二日まで開かれ、平成九年度の一般会計予算、及び下水道事業特別会計など、六特別会計予算が可決成立しました。現在、地方財政は景気の低迷を反映して、昨年度にも増して非常に厳しい状況となっています。このような中で新年度予算は、健康文化都市の指定を受け「新しいビジョン、新しい戦略プロジェクト」のもと、これまで以上に財政の健全性確保に努め、二十一世紀の村の将来像を見据えた予算編成となりました。今年度の一般会計予算は、歳入歳出それぞれ二十六億九千二百円で、昨年度に比べ二・〇%の増額となり、下水道事業や国民健康保険、老人保健、各財産区の六特別会計を合わせた総予算は四十億六百五十一万八千円で、前年度と比べ一・〇・〇%の増額となりました。

平成9年度市浦村一般会計



平成9年度会計別予算額

区分	予算額	前年度との比較	
一般会計	26億9,200万円	5,400万円	
特別会計	下水道事業	3億2,739万4千円 1億5,655万8千円	
	国保事業勘定	3億5,348万円 5,287万2千円	
	国保直診勘定	1億8,228万6千円 1,102万4千円	
	老人保健	4億3,328万円 9,142万7千円	
	相内財産区	1,152万1千円 58万4千円	
	聡元財産区	458万3千円 5万8千円	
	十三財産区	197万4千円 △193万7千円	
	総額	40億651万8千円	3億6,458万6千円

(△はマイナス)

一般会計の村民1人あたりに使われているお金は、820,982円です。

予算編成にあたって

市浦村長 高松隆三



昨年1年間で生まれた子どもの数が415名、亡くなられた方は41名、そして今年

の小学校の新入生が27名でありました。時の流れと言ってしまうまでもありますが、死亡者が出生者数の3倍近くにもなる村の人口は加速度的に減少していくと言われて居り、特に次代を担う子どもの数がこれほど減り続けることは村の将来にとって大変憂慮すべきことだと感じます。

また今年度は地方自治法が施行されてから50周年という節目の年であり、行政改革、財政改革、それに規制の緩和、地方分権など、まさに明治維新以来の大改革、大変革の時を迎えて居り、地域経営の難しさとその責任の重さを痛感しているところであります。

経済成長が止まり、人口が減少し、一方においては高齢化や情報化の波に押され、村民の価値観も多様化しているこうした諸々の現状を私は、「21世紀への余光」としてとらえ、地域再生というよりかは地域創造という新しい視点に立てて予算の編成にとめたところであります。

この結果平成9年度の一般会計予算は、26億9,200万円となり、このほか下水道や国民健康保険、老人保健、それに財産区などの特別会計予算もあわせると、わが村の予算総額は40億651万8千円となった次第であります。

特に今年度は21世紀の市浦像をめざした村づくりを進めるため国にして「健康文化都市」の指定を受けるべく立候補していたところ今回正式決定をみたので、海水温泉や福祉の拠点づくり、

それに高付加価値型の漁業の振興等を中心に、21世紀初頭を展望した、わが村の「新しいビジョン、新しい戦略プロジェクト」をつくり、効率で計画的な行政を進めるほか、食糧新時代に耐えられる農業、農村の再構築を図るための基盤である「はた場整備事業」の本格着工にも全力をあげる考えであります。またトマトの生産額2億円をめざした省力型大規模ハウスの導入や、キヌアなど新作目の試験栽培等についても積極的に取り組みこととしました。

4月には十三湖高原駅や交流広場もオープンしました。これを契機に地域のイメージアップと都市との交流を深めるため全国で初めての「十三湖横断ウォーク」や四国民舞祭の会、関東しづら会などとの現地交流会も開くこととし、それぞれ予算を計上したところであります。

また、快適な環境づくりのための下水道や道路建設事業は継続して実施することは勿論ですが、将来の水不足に対応して津軽ダムから取水する広域水道事業は順調にいても平成20年までかかる先の長い事業であります。これは21世紀への先行投資という意味もあり、ご理解いただきたいと思います。

統合保育所の建設については平成10年度着工の方向で用地決定を急ぎたいと思っております。

ただ予算編成にあたって最も苦慮したことは人口の減少や児童生徒数の減少に伴い昨年度に引き続き地方交付税が約4,000万円も減額になったことと、35億円にのぼる長期債の償還額が予算全体の20%も占め、財政事情が年々悪化し、すべての要望に応えることが難しくなったこととであります。

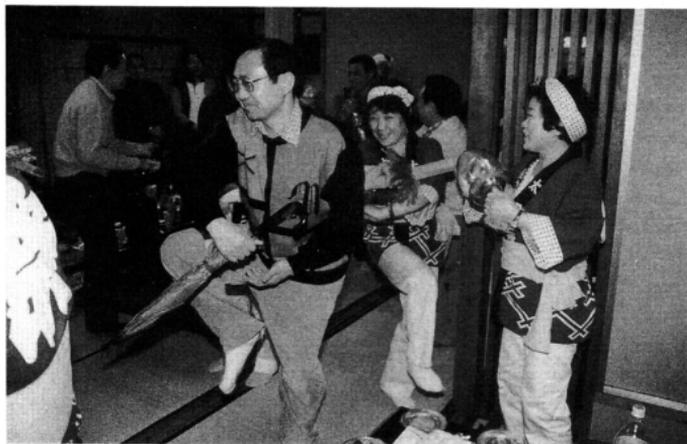
時の流れは常に新しい価値観の転換をもとめて変わって居り、村民もまたこれまで以上に単に行政に求めるだけの姿勢から脱皮して自らこの村のために何ができるかというふうに変わって欲しいと思っております。また私も行政を行う立場にある者としてもマンネリズムとセクショナリズムを廃し、常に広い視野と創造性を結集して村勢の進展のため最善を尽くす考えでありますので、一層のご理解と協力をお願い申しあげます次第であります。

今年度の主な事業

総務費 331,715千円  <ul style="list-style-type: none"> ・役場庁舎外壁塗装工事 5,500千円 ・ふるさと交流事業（十三湖横断ウォークなど） 4,280千円 ・固定資産路線価・画地計算設置業務委託料 2,208千円 	土木費 388,924千円  <ul style="list-style-type: none"> ・新相内十三湖整備事業 112,080千円 ・相内太田鏡線道路改良事業 100,030千円 ・急傾斜地対策事業負担金（太田・脇元） 8,400千円
民生費 438,024千円  <ul style="list-style-type: none"> ・福祉バス購入事業 21,000千円 ・高齢者生活福祉センター運営委託料 31,000千円 ・老人保護措置費 92,302千円 	消防費 160,179千円  <ul style="list-style-type: none"> ・津軽北部広域事務組合負担金 141,062千円 ・地域防災計画委託料 4,300千円 ・消火栓取替委託料 2,000千円
農林水産業費 258,774千円  <ul style="list-style-type: none"> ・省力型高品質長期安定施設導入 支援補助金 12,263千円 ・脇元地区ふるさと農道 17,040千円 ・県営実地地区は場整備 26,903千円 	教育費 249,443千円  <ul style="list-style-type: none"> ・十三湊遺跡発掘経費 32,673千円 ・磯松公民館改修工事 6,000千円 ・外国青年招致事業費 4,528千円
商工費 118,984千円  <ul style="list-style-type: none"> ・十三湖高原展望台整備事業 24,000千円 ・福島城遺跡公園整備事業 34,884千円 ・四ツ滝山遊歩道標識設置工事 2,262千円 	その他 745,957千円  <ul style="list-style-type: none"> ・健康文化都市推進事業費 19,863千円 ・津軽広域水道企業団負担金 16,521千円 ・一日ドック委託料 14,642千円

東京相内会 交流会

東京相内会の交流会が四月六日東京都浅草にて行われ、約六十名の参加者が集まり、交流を深めました。



▲一番のおみやげは虫おくりの出張サービス。手に持っているのは…?

二十年目は雨の交流会

相内小学校創立百周年記念に参加した人たちが都内で暮らしている同郷者で集い、励まし合

い、楽しむ機会を作ろうとスタートした「東京相内会」、毎年四月第一日曜日に上野公園に集まり交流会を開催していますが、昨年十九回目の交流会で、「来年は二十周年という節目の年なので、地元市浦からも多数参加してもらって盛大に開催したい」との希望があり、今回実現したものです。

市浦からの参加者は前日から夜行バスにて上野に到着しました。当日はあいにくの雨模様のため、急きょ予定を変更し浅草の料理店の一室を借りて、相内会から約四十名、地元市浦から約二十名、合わせて六十名が集まりました。

交流会では鳴海憲也相内会々長が「これまでに会を継続するのが難しい時期が何度ありましたが、みなさんの協力で今回は地元市浦から多数の参加を得て、第二十回目の会を開くことができた。…」と挨拶されたのに続



▲雨のため室内での開催となりました

き、村側を代表して工藤助役が「二十周年という記念すべき会に参加できたことに感謝する。これからも相内会が益々発展されることを期待します」と挨拶しました。また相内芸能保存会の三和孝徳会長が「本来であれば上野の桜の下で力一杯眺めて踊りたかったのですが、あいにくの雨になってしまいました。膝を近くして話ができるのもまた一興かと思えます。これからも地元から相内会のお手伝いができればと思っています」と挨拶、葛西孝ふるさとしづら会々長による乾杯で交流会の幕が開かれました。

第20回



▲40年ぶりの再会に感動する参加者

久しぶりの再会 ふるさとのおみやげに感動

会場のあちこちではなつかしい顔を見つげ、握手をしながら「久しぶりだな・・・」「元氣にしてらがる・・・」と挨拶する光景が見られ、中には四十年ぶりに再会を果たした親友同士が「今日は人生最良の日です。相内会に入つてからおかげで再会ができました。このような機会をつくってくれた相内会に感謝します」と懐かしさに涙を流しながら抱き合う光景もありました。地元市浦からはいろいろなお

みやげや手料理が持参され、煮しめ、みそ漬け、こんぶのおにぎりなど、懐かしさ、素朴なふるさとの味に参加者は「この味は地元のお味を使わなければ絶対に出不せない味」と大感激。さらには、「虫送り」の生演奏付きによる実演が行われました。さつままでく普通だったお座敷に太鼓と笛の音が鳴り響いた瞬間、会場は六月に行われていた相内の虫送りに早変わり。ある人は太刀を掲げ、またある人は少ない太刀の替わり

に傘を太刀に見立てて「ハネロジャハネロ」「イツモコンダラドウスペナ」とかけ声を掛けながら会場内を力強く跳ね回っていました。東京相内会では今後とも市浦会と平行して活動を続けていくことになっており、春のイベントには相内地区に限らず、十三、脇元、磯松出身の方でも気軽に参加していただきたいよう合っていました。



星をイメージしたギャラリーが完成！

地域の美化活動への積極的な参加の期待ふくらむ

天の川かささぎロード文化事業の一環として星をイメージした小宇宙空間を演出している六角形のギャラリーが、このほど町立上ノ国診療所付近に完成しました。

このギャラリーは、蝦夷地の都・上ノ国、再発見フォトコンテストの入賞作品や地域の子ど

もたちが絵画などを掲示し、地域住民といきいきと交流できる場の確保をとおして、地域文化の創出をはかることを目的につくられました。

夜間には照明の演出でスポットにより写真や絵を引き立たせます。天井部のイメージとして、木に焼き付けられた星座の模様をつくり星の穴から光りをだします。

このギャラリーの設置によって、沿道住民と児童生徒との新しいコミュニケーションが生ま

友好町村だより ⑭

かみのくに 情報ランド



▲完成した六角形のギャラリー

れ、沿道住民の児童生徒に対する親近感が増し、ギャラリーを含めた歩道やポケットパークの美化清掃などの地域活動への積極的な参加が今後期待されます。また、子どもやお年寄りなどの休憩の場としても利用することができそうです。

なお、絵画については、今後各小中学校などに作成をお願いし、掲示していく予定です。

新 小学一年生 大集合



青木 将太
べんきょうがで
きるごと。



秋田 兼祐
さかがりがで
きるよになり
たい。



向峠 博和
なわとびをい
っぱるよにな
りたい。



飯島 大貴
さかがりがで
きるよになり
たい。



平野 雄大
がたていしゃ
りんがで
きるよになり
たい。

相内小学校

11人



佐々木 優佳
こうさくをや
ってみたい。



三和一成
とけいをよめ
るよになり
たい。



成田 直史
なわとびをじ
ょうずにな
りたい。



大性 晴嗣
すべりだいで
あそびたい。



古都 武尊
こうさくをや
ってみたい。



今野 優佳
バレーボール



中井 怜
やきゅう



越野 智裕
さんすうのべ
んきょう



新岡 詳久
さんすうのべ
んきょう

十三小学校

8人



高木 美穂
おともだちを
いっばい
つくりたい。

村内の各小学校に二十七人の新しい顔ぶれがそろいました。子供達にこれからどんなことをやってみたいか聞きました。



奈良 仁
べんきょうを
がんばり
たい。



奈良 朋弥
べんきょうを
がんばり
たい。

太田小学校

5人



小倉 幸乃
バレーボール



濱田 彩乃
さんすうのべ
んきょう



濱田 彩加
さんすうのべ
んきょう



武田 美穂
バレーボール



葛西 慎太郎
べんきょう



松橋 宏樹
さんすう、な
わとびとサ
ッカー



藤田 英
たしざん、
ひきざん
をがんばり
たい。

脇元小学校

3人



奈良 洋美
パソコンをや
ってみ
たい。



土岐 香菜絵
いっばいあ
そびたい。



丸山 翔平
パソコンをや
って
み
たい。

NEEMO FM 77.1MHz

V i c ・ ウ ェ ィ マ ン 三浦あまきさん

青森県では、平成六年度から地域農業の振興や農村の活性化の推進役を担う人材として、「Vic・ウェィマン」制度をスタートさせており、当村ではこれまで工藤苗子さんが認定されていますが、今回新たに三浦あまきさんが認定されました。

「Vic・ウェィマン」制度とは、「Village Woman」(Village of Woman)の略で、地域によりよい「農とくらし」を指導する女性リーダーの意味です。

三浦さんは専業農家の主婦同士の交流推進や、給料制の導入、就業時間の取り決め等暮らしを大事にした経営をされていることが評価され今回の認定となりました。

今回の認定を受けて三浦さんは「農業は身体が資本です。健康な体を保つては食生活をはじめ家庭内をしっかり守るのが私の役目。また給料制によって仕事へのはげみにつながることから、地域活動の中で広めていきたい」とはりきっています。

市浦村商工会青年部(成田武司)部長は青森県商工会野球大会で優勝、第十五回市浦村スポーツ賞を受賞したほか、各種イベントの取組や、村内の観光施設の清掃、防犯活動への協力な

市 浦村商工会青年部 全国表彰受賞



▲三浦あまきさん

とが認められ、このほど商国国技館で行われた商工会青年婦人部全国組織化三十周年記念式典において、商国商工会青年部連合会長賞を受賞しました。

また、商工会青年部が四年こ

高松村長に受賞報告をする 成田部長



とに発行している市浦村電話番号早見表が完成し、各家庭へ配布しました。判を重ねることに使い易さを向上させている早見表ですが、今回は冠婚葬祭豆知識を掲載し、同時に冠婚葬祭豆知識に必要な業者の電話番号も同じページに整理するなど、工夫が施されています。新しい電話番号早見表の完成と全国表彰受賞報告に訪れた成田部長は高松村長は「発想の仕方では地域は変えることができるし、行動すること組織の活性化となり、地域づくりの輪が広がっていくものだ」と激励、青年部の今後の活躍に期待していました。

こだわりの電話帳制作 商工会青年部々長 成田 武司

商工会青年部が制作していた平成九年度判市浦村電話番号早見表がようやく完成されたことができました。スポンサーの方々に指導ご協力いただいた方々に心からお礼申し上げます。

これまでは普通の電話帳でしたが、今回私たちはこだわりの役目だけでなく、村民の皆さんに役に立つようなことを載せたら面白いと考え、電話帳の中に冠婚葬祭豆知識と県内外の観光客に市浦の史跡、遺跡、寺社などを尋ねられても答えられるように市浦の歴史マップを掲載してみました。また、今回はスポンサーのご協力もあり、千部制作発行し、三月末までに各家庭に配布しました。電話帳そのものが高価なものですので、私たちが



▶新しい電話番号早見表

お詫びと訂正

「平成九年度判市浦村電話番号早見表」において一部誤りがあつたので訂正してお詫びいたします。(商工会青年部)

- * 6ページ、「古川 徹」と「古川広志」の間に追加
古川 宏……………62-2465
- * 7ページ
佐々木昇
↓
佐々木晃
- * 9ページ
武田裕幸……………62-3507
武田裕幸……………62-2234
- * 10ページ
中島製材所棟内
F A X 62-2127
↓
F A X 62-2172

第21回全国育樹祭 参加者募集

青森県では今年9月に青森市合子沢を会場に、約10,000人が参加して、緑豊かで住み良い活力ある郷土づくりを目指し「つたえよう世界へ未来へ 青い森」を大会テーマに開催する全国育樹祭の参加者を県民から募集します。

皆様ふるってご応募ください。

●募集要領

- 応募条件は、小学生以上の県内在住者(小・中学生が応募の場合は父兄等の同伴を条件とします)。
ご家族で参加を希望する場合は、1家族2名以内とさせていただきます。
- 住復はがきに住所・氏名・年齢・性別・職業・電話番号をお書きのうえ、下のあて先までご応募ください。また、返信用はがきにも必ず(ご自身の住所・氏名)を明記してください。
- 応募は1人(1家族)1回に限ります。2通以上の申し込みの場合は、無効となります。
- 抽選で1,000名の皆様をご招待いたします。
- 当日は早朝の出発となり、事務

局指定の集合場所と会場の間を
送迎します。

- 参加費は無料です。

▶申し込み

〒030-70
青森県農林部林政課内
全国育樹祭実行委員会事務局
「公募招待者募集」係

▶募集期間

5月1日(木)～5月31日(土)
※当日消印有効

▶発 表

返信用はがきで結果をお知らせし、当選者には後日、招待状を送付します。

▶お問合せ先

0177-73-9676

知っていますか 「なんでも110番」

村では村内各地域に「なんでも110番」の相談員を配置し、地域づくりや行政に対する相談等を受けつけています。どんなことでも気軽にご相談ください。

◇各地域を担当相談員は次のとおりです。

脇元地区	議会事務局長	竹 谷 博 則	☎62-2252
磯松地区	企画財政課長	桑 野 邦 夫	☎62-2374
相内地区	経済観光課長	成 田 義 正	☎62-2749
太田地区	出納室長	古 川 徹 徹	☎62-3467
十三地区	建設課長	中 居 松 男	☎62-3157

6月1日現在で商業統計調査が行われます

商業統計調査は、全国の商業(卸売・小売業)を営むすべての事業所(商店)を対象としている調査です。

商業統計調査員が、皆様の店舗に伺って、6月1日現在で調査票の記入をお願いし、記入していただいた調査票を後日回収に伺います。お忙しいところ誠にお手数ですが、ご協力くださるようよろしくお願い申し上げます。

この調査にお答えの内容は統計作成の目的以外に使用することは絶対ありません。

人事異動

四月一日付けで、役場職員の人
事異動が行われました。

(内は旧所属となっています)

〔課長級〕

▼参事兼総務課長(議事事務局局長
職江 幸勝

▼議会事務局局長(参事兼総務課長
竹谷 博則

〔一般職員〕

▼総務課主任主査(十三保育所主
任係母)長谷川浩子▼津軽広域水
道企業団派遣(経済観光課技能員
三浦義昭▼建設課土木係(教育委
員会生涯学習係)鳴海忠▼企画財
政課企画広報係(津軽広域水連企
業団派遣)三和大純▼経済観光課
商工観光係(建設課土木係)村元
宏植▼住民福祉課健康管理係(総
務課総務係)中井規江▼総務課技
能員(経済観光課技能員)岡本隆
雄

〔新採用〕

▼住民福祉課保健婦 一戸優美子

▼市浦診療所看護助手 三和綾子

▼市浦診療所看護助手 松橋知子

〔退職〕

▼十三脇元出張所長 安保隆悦▼

市浦診療所看護婦見習 今ハツエ

▼住民福祉課保健婦 小山内調子

▼脇元小学校給食婦 工藤蓉子



▽お誕生

八木澤 彩(十三) 光博

横山海(松川) 淳一

秋田谷 恭兵(桂川) 洋

白川 由(相内) 清人

葛西 友(磯松) 浩三

菅山 善和(脇元) 泊元

加藤 千貴子(小橋) 泰久(横

高橋 泰久(横

奈田 悦子(相

今桐 千春(青

松 菜穂子(松

佐藤 浩二(札

山下 徳二(元

山本 利治(十

花田 明美(青

山下 明美(青

川村 一城(名

下澤 典子(太

小寺 武(脇元) 元

小倉 ユヰ(十三) 三

洪 三ツヨ(十三) 三

橋引 長(相内) 三

吉田 治(相内) 三

佐藤 治(相内) 三

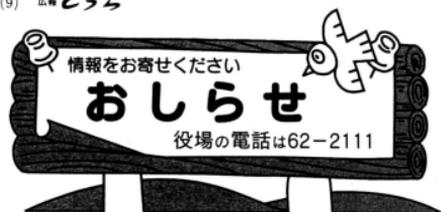
伊南 又(磯松) 元

75歳

73歳

70歳

65歳



行政相談員を ご利用ください

わたしたちの日常生活で、行政が行う仕事について苦情や要望、意見があったとき、もっとも身近な相談相手になるのが、行政相談員です。

相談は無料で、口頭や電話、手紙でもかまいません。内容は行政に関するものであればどんなことでもよく、相談を受けた行政相談員は、秘密を守って親切にお話をすることになっています。

また同時に、受けた相談はそれぞれの事例や、寄せられた意見それぞれの行政運営に生かすという大切な役割も担っています。

▶行政相談員

小山 巖さん

▶電話番号

62-2244

国民年金の 「免除」と「追納」

国民年金には、保険料を納めることが困難なときのために、保険料が免除される制度があります。失業、病気、災害などで収入が減った方や、20歳以上の学生で、本人に収入がなく、なおかつ親元の収入が法律で定められた基準以下の場合には、申請すれば保険料が免除されます。

申請して保険料を免除された期

間は、納付した場合と同じく、年金の受給資格期間となります。

しかし将来、年金の額を計算する場合には、その期間は保険料を納めた場合に比べ、3分の1になってしまいます。

そこで、生活にゆとりができたときには、免除された期間の保険料を最高で10年前までさかのぼって納めることができます。これを「追納」と言います。この制度を利用することによって将来、満額の年金を確保することもできます。

この場合の保険料は、免除を受けた当時の保険料に、その後の経過した年数によって一定の額が加算されます。

平成9年度の1年間の免除を受けるためには、5月末日までに申請することが必要です。

▶お問合せ先

役場住民福祉課国民年金係

青空赤十字フェスタ'97を 開催

日青青森県支部では、5月8日の世界赤十字デーの周知を図り、赤十字事業をより多くの県民に知ってもらうために、5月8日(木)の10時～3時まで、青い森公園および日赤県支部を会場にイベント「青空赤十字フェスタ'97」を開催します。

内容は、チャリティーマーケットを始め、医療・健康相談、介護

市浦村の人口と世帯数 平成9.4.1現在

大字名	前月人口	人口	世帯数
相 内	1,293	1,290	407
桂 川	68	68	23
大 田	292	286	88
脇 元	546	535	193
磯 松	305	305	111
十 三	801	795	251
計	3,305	3,279	1,073

用品展示、災害非常食体験、日本赤十字グッズ販売、小児リハビリテーション相談、協力者にはカーネーションをプレゼントする献身体験、救急実技体験など。

なお、各コーナーで実施されるスタンプラリー終了者には、豪華景品が当たる抽選会のほか、来場した子どもたちに締めあめをプレゼントするなどご家族で楽しめる、赤十字の事業が体験できるイベントとなっています。

▶お問合せ先

日本赤十字社青森県支部

組織振興課

▶電話番号

0177-22-2011

西北五法律相談センターが 開設されました

このたび、青森県弁護士会では、法律相談事業の一環として今年4月から五所川原市内に「青森県弁護士会西北五相談センター」を開設することになりました。皆様お気軽にご利用ください。

▶住 所

五所川原市岩木町12

産経会館5階

▶相談日

毎週火曜日午後1時～3時半まで。祝日は休ませていただきます。

▶相談料

相談時間30分につき5,000円とします。

▶相談の申し込み

電話でお申し込みください。

▶電話番号

0177-77-7285



県内の交通事故概況

青森県交通対策協議会

	3月		死者のうち	高 齢 者 の 死 者	
	発生	累計		シートベルト	飲 酒 運 転 による 死者
発生	553件 (575)	1,773件 (1,914)	死者のうち	10 (5)	2 (5)
死者	11人 (5)	24人 (16)	シートベルト	着用義務者 (着けなければならぬ人)	9 (11)
傷者	663人 (711)	2,144人 (2,349)	シートベルト	非着用者 (着けていなかった人)	6 (9)
			シートベルト	着けていれば 助かったと思われる人	2 (4)

()内は前年。累計は1月から。

